

# 令和元年度第2回大田区子ども・子育て会議（議事要旨）

日時：令和元年8月30日（金）18時30分から20時10分まで

場所：大田区役所本庁舎 201、202、203会議室

出席委員：澁谷委員、吉田委員、柴田委員、松田委員、加藤委員、齋藤委員、古川委員、渡邊委員、森谷委員、田尻委員、海老澤委員、田村委員、12名

区側出席者：水井こども家庭部長、中村子育て支援課長、柳沢児童相談所開設準備担当課長、武藤子ども家庭支援センター所長、津本保育サービス課長、間保育サービス推進担当課長、早田こども家庭部副参事（保育基盤整備担当）、塩沢人権・男女平等推進課長、福島生活安全担当課長、近藤地域力推進課長、白根国際都市・多文化共生推進課長、堀江工業振興担当課長、奥田産業経済部副参事、有我福祉管理課長、大淵子ども生活応援担当課長、曾根障害福祉サービス推進担当課長、佐々木健康医療政策課長、榊原都市計画課長、杉山教育総務課長、元木教育総務部副参事（教育地域力担当）、岩崎幼児教育センター所長、中村子育て支援課経営計画担当係長、22名

傍聴者：4名

## 1 開会

【中村課長】令和元年度第2回大田区子ども・子育て会議を開催する。

菊地委員、内山委員は、欠席とのご連絡をいただいている。

本日の会議は、議事録作成のために録音させていただく。また、議事要旨は区のホームページで公開する予定である。

会議の開催にあたり、こども家庭部長、水井より挨拶を申し上げる。

## 2 こども家庭部長挨拶

【水井部長】今年の夏は猛暑が続き、保育園等のプールがなかなかできないという状況であった。このところ涼しい日もあったが、暑さがぶり返したりするため、健康には気をつけていただきたい。

この時期は新学期に向けて、お子さんたちが笑顔で学校に来てもらえるのかどうか、中には足が遠のいてしまうようなお子さんもいらっしゃると思うので、やきもきする時期でもある。新学期に向けて、児童館等でもしっかりと活動をしていきたいと思っている。

本日は、定例の議題のほかに、子ども・子育て支援事業計画について具体的な意見をいただく場と考えている。

現行計画の5年間の振り返りと今後の5年間のサービスの需要と予測について途中経過を報告し、意見をいただきたいと考えている。

【中村課長】続いて、松田委員に委嘱を行う。委嘱状は略式で机上に用意している。任期は令和3年3月31日までである。

松田委員より一言御挨拶をお願いしたい。（松田委員自己紹介）

また、7月1日付区の人事異動により、保育サービス課長が交代している。（津本課長自己紹介）

## 3 議事

### （1）子ども・子育て支援法第31条第2項に基づく意見聴取

【早田副参事】資料2-1、2-2、2-3、2-4、2-5により、子ども・子育て支援法第31条第2項に基づく意見聴取について説明

【田尻委員】おはよう保育園梅屋敷について、4歳が3人、5歳が2人とあり、3歳から4歳になる時にかなり数が減り、4歳から5歳になる時にさらに1人減るといふ数字になっている。どういう方が4歳、5歳のときにとどまるのか。また、4歳、5歳になると、他の子どもとの関わりが大事になってくるといふが、同年代の子どもが少ないのではという気がしている。

【早田副参事】こちらは開設時の定員を記載している。定員設定は毎年変更している。保育園を新しく開設した時は低年齢児はすぐに埋まるが、4歳、5歳の子どもは新しく入る方が少ないことから、最初

は定員を少なく設定している。来年になると、持ち上がりの子どもの数が確実に入れる人数に変更する。

**【松田委員】**屋外遊戯場があるのはグローバルキッズ六郷保育園だけで、あとは代替場所として公園が明記されているが、地図を見ると計画予定地から代替公園まで遠いように見える。子どもを巻き込んだ交通事故等が最近報道されているが、保育施設から代替公園まで行く道のりの交通安全施策などは検討されているのか。

**【早田副参事】**代替場所として公園などを指定する場合は、区の担当者が公園まで歩くルート等を確認している。交通安全、歩き方等については、大田区で手引きを用意しており、安全を確保するよう指導も行っている。

**【澁谷会長】**公園の周りに何園ぐらい保育園・保育施設があるかを確認した上で、実際に公園が混雑することはないと確認していると理解してよいか。

**【早田副参事】**公園を指定している3施設について、おはよう保育園梅屋敷は、他に2園が同じ公園を指定している。残りの2園に関しては、どこの保育園も指定していない公園となっている。区立の18拠点園がその地域で連携をとり情報共有しながら、公園の情報や使い方のルール等の確認を行っている。

**【松田委員】**ある公園で、高齢者がゲートボールなどをするためロープで囲いを作り、保育園等の子どもたちが遊べないようになっている曜日や時間帯があるが、そういった情報も共有されているのか。

**【早田副参事】**公園はいろいろな方が利用するところである。認可申請の際に公園の指定が必要であるが、指定した公園だけしか使えないということではなく、いろいろな公園が使えることになっている。曜日によって使えない公園があれば他の公園を使うというように、近隣で情報共有しながら使っている。

**【田尻委員】**グローバルキッズ六郷保育園は高架下にあるのか。また、屋外に園庭があるが、日が当たるのかが若干気になるため、近隣の公園の状況も確認しているのかについて教えていただきたい。

**【早田副参事】**高架下にある保育園である。現在、雑色駅の近くにも高架下に保育園があり、そちらでは水遊びができるようなスペースを設置している。高架下のためずっと日が当たるわけではないが、夏は暑過ぎてひさしが欲しいというような状況もあり、ちょうどいい涼しさ・暑さで水遊びができるという利点もある。また、園庭だけで遊ぶわけではなく、近隣の公園にそれぞれの保育の目的を持って出かけることもある。

**【田尻委員】**自然に触れる時間も持てるようにしていただけたらと思う。

**【古川委員】**鶴渡公園のハトに対する対策について、確認したい。大分減ったとは思いますが、東邦医大の入院患者が散歩する際などに餌をあげたりするため、いろいろと問題があるようだ。子どもにとってハトはあまりよくないと思うので、対策をお願いしたい。

**【澁谷会長】**公園は、実際に使ってみると、視察をした時になかった問題が発生することが多々あると思うので、引き続き情報収集いただきたい。

## (2) おおた子ども・子育てかがやきプランにおける事業実績報告について

**【澁谷会長】**議事3の(2)「おおた子ども・子育てかがやきプランにおける事業実績報告」について、事務局から説明をお願いします。

**【中村課長】**資料3により、おおた子ども・子育てかがやきプランにおける事業実績報告について説明

**【澁谷会長】**事業数が多いので、基本目標ごとに確認する。基本目標1「地域における子育て支援体制を充実します」について、ご質問やご意見、ご指摘等いただければと思う。

**【吉田副会長】**18地区ある中で、各地区の民生委員がそれぞれ子育ての分野に関わっている。近所のお

母さんと一緒になって取り組んだり、勉強会などいろいろなことで携わっているが、何か援助してほしいということがあったときにも、個別に対応したり、周りのグループで対応するなど、いろいろな面で子育ての応援ができていないかと思っている。

**【渋谷会長】** 基本目標2「仕事と子育ての両立を支援します」について、ご意見やご指摘はあるか。

**【海老澤委員】** 個別施策「小規模保育所の拡充支援」について、今後、卒園後の受け皿となる連携園を確保するとなっているが、どういう計画として考えているのか。

**【早田副参事】** 小規模保育所は2歳までの保育所のため、3歳になった時に受け皿となる連携施設を設置することが法で定められている。連携施設は本来であれば事業者が設置するが、いろいろな状況の中で設置できないことがあり、30年度に小規模保育所の開設に至らなかったケースがあったため、C判定となっている。今後は区が間に入り、既存の小規模保育所の連携施設の設置支援の取り組みをしていく。また、連携施設が確保できたとしても、途中で施設が変わることに不安を持つ保護者がおり、かつ認可保育所の整備も進んでいるため、認可保育所を希望する方が増えてきているという現実がある。そういった理由から、次期計画では小規模保育所の計画を見直す必要があると認識している。

**【海老澤委員】** 子どもの環境が変わるのは大変なため、保護者が安心して預けられる場所を整備していただけるようお願いしたい。

グループ保育室の開設について、29年度、30年度がCになっている。この評価についてどう考えているか、またこの評価を踏まえて、今後、見直しや改善をしていかなければいけないと思うが、どのような検討がされているか。

**【間課長】** 当初計画の中で施設数の目標を立て臨んできたところであり、開設に当たって、基準を満たす施設を区有施設の中から探してきた。これまでに多くの施設を候補として検討してきたが、基準を満たす施設が少なく、また、施設の広さに見合った保育ママの人数を確保する必要があり、同時にこれを進めていかなければいけない中で、マッチングがとても難しい面があった。今後は、グループ保育室に適した物件がなかなか出てこない現状を踏まえ、自宅での保育を行う保育ママの拡充を図っていく。

**【海老澤委員】** 大田区では保育ママ制度を独自でやっているが、子ども・子育て支援法に基づく制度に移行していないのはなぜなのか。

**【間課長】** 現行計画では、新子ども・子育て支援法の施行直後で明確でなかった部分があり、保育ママ自身がこの制度の移行について躊躇することが多かった経緯がある。区としても、無理やり制度移行するのではなく、保育ママの意見を尊重し、法に基づく制度への移行を積極的に推奨してこなかった。法施行から5年たった今、他区の状況などを保育ママ同士で情報交換しているようであり、子ども・子育て支援法に基づく認可事業としての家庭的保育事業に移行を希望する声も増えている状況である。移行すると保育ママの処遇や運営費の支援が手厚くなるメリットがあるため、今後は制度の詳細を説明し、理解を得ていく。その段階を経て、保育ママの意向に配慮しながら法に基づく認可事業としての制度へ移行していく。

**【田尻委員】** 子育てと仕事の両立について、企業向けの施策が少ないと感じている。ワーク・ライフ・バランスの啓発として企業向けに展示や講演会等を行っている事業があるが、参加事業所数が34事業所となっている。保育園に入園すれば両立できるというわけではなく、勤めている職場の方々の理解も必要である。在勤在住の方に対して、保育園予約制度などの支援施策をもう少し周知していただくと、企業側としても従業員に対して情報提供するなど、職場環境をよくしていくことにつながると思う。企業連携について、今年度以降取り入れていただけたらと思う。

**【塩沢課長】** 本年度も企業向けのワーク・ライフ・バランスセミナーを開催することを企画している。今後も、企業向けのセミナーを充実し、PRしていければと考えている。

**【渋谷会長】** 次に、基本目標3「親と子どもの健康の確保及び増進を図ります」について、ご意見等はあるか。

**【田尻委員】** すこやか赤ちゃん訪問について、事業計画で全数訪問を目指しているが、訪問率は29年度に比べると若干下がってしまったかと思う。訪問できない家庭に対しどのようにフォローアップ等をしているか、また、今後の全数訪問に向けてどのような対策を考えているか。

**【佐々木課長】** すこやか赤ちゃん訪問の目標である全数訪問はこれまでも掲げており、今後も目指していくが、転居や、電話してもつながらないなど、実際にはなかなか難しい状況がある。ようやく会うことができ、地区担当保健師につながり、支援につながるという状況もある。関係機関と連携しながら全数訪問達成を目指していく。

**【田尻委員】** 各種健診についても、受診しない方のフォローアップもしているのか。

**【佐々木課長】** 乳幼児健診の実施についても、該当の方に案内を通知し、来られない場合は個別に担当保健師が受診勧奨をしているが、年度途中での転居など、さまざまな事情で実際には乳幼児健診の全数実施はできていないのが現状である。

**【田村委員】** 自殺総合対策の推進について、協議会を開催しさまざまな子どもたちの悩みに対する支援を進めている。例えば平成27年度の事業実績には、教育相談、子ども電話相談、メール相談などがあるが、年度別の相談件数の推移など、大田区における自殺総合対策促進整備の成果の見える化をぜひお願いしたい。大田区における自殺の推移などについて、区の見解をお聞きしたい。

**【佐々木課長】** 大まかな傾向として、自殺者の総数は減ってきている。昨年度の大田区における自殺者数は110名余りとなっている。総数は減っているものの、10代の自殺者数は、むしろ増えている状況がある。子どもを中心とした若い世代が生きることへの支援をしていくことが行政の役割として求められている。教育総務部と連携しながら、SOSの出し方に関する教育等に取り組んでいる。

**【田村委員】** 行政が支援できる時間帯や曜日などは縛りがある。今後は、民間の活力や地域のネットワークなどを拡充しながら、多角的にフォローできるようにぜひ検討していただきたい。

**【渋谷会長】** 次に、基本目標4「子どもの生きる力を伸ばし、未来を担う人材を育成します」について、お気づきのところについて意見いただきたい。

**【森谷委員】** 放課後ひろば事業の定員拡充について、近年の学級増により、最近では空き教室そのものがなく、今後は学校改築以外の展開が望めない状況となっているとあるが、学校の増改築というのはそう簡単にはできないものであり、長期的なスパンでないと教室を増やすことは不可能である。そのような状況の中、希望者が多い場合はどのようにしていくのか。

**【中村課長】** 国の方針によると、学童保育は、学校の中で放課後そのまま通えるというのが一番望ましいが、なかなかそう進んでいない現状がある。改築を待たずに今できることとして、1人当たりの基準を満たす限りにおいて定員数を増やす工夫をしている。学校の中ではなかなか確保できないため、周辺の児童館の中に学童保育を継続しているという実態がある。

今後は定員の見直しを行い、入所を希望する児童が入れるように、また、より必要度の高い方をしっかり見守っていけるようにするため、低学年の受け入れを十分満たしていけるように努めていく。

**【森谷委員】** 空き教室が幾つかあったほうが個別的な学習ができるため、その空き教室がなくなるとどこで学習ができるのだろうかという若干の不満も教員の側からはある。これ以上増やさないでほしいというのも本音である。特別支援教室が半教室分しかないこともあり、特別支援教室の担当の先生は1教室分を欲しいという希望に対し、いろいろ調整するのは大田区でも大変な状況だと思うが、いろいろな意見を聞きながら進めていただきたいと思う。

**【松田委員】** おおたっ子ひろばで夏休みの間朝8時半から夕方5時まで子どもを預かってくれて、非常に助かった。しかし、夏休みは給食がないため、お弁当の用意が大変である。将来的に、給食等のサービスは検討課題としてあるか。

**【中村課長】** 給食として提供するには設備上やアレルギー対応等の問題があるため、現状では持ち込み

となっている。今後に向けて大きな課題だと認識しており、可能な限り検討は進めていきたいと思うが、現状では難しいという認識である。

**【田尻委員】** 児童館の一般利用について、他区では日曜日にも実施していると聞く。日曜日に雨が降ると、子どもがいる家庭は行き場所がなく、子ども同士で遊ぶにもどこにも場所がない。公園でも遊べず、高架下でゲームをしている姿を見ることもあり、休みの日にこそ子どもが行ける居場所が必要ではないかと考えている。日曜日の利用についても検討していただきたい。

**【中村課長】** 日曜に限らず、平日でもそういった意見がある。晴れた日は公園に行き、雨が降ったら児童館に行くという方もたくさんいる。日曜日の利用について、意見として受けとめさせていただく。

**【渋谷会長】** 次に、基本目標5「子育てにやさしいまちをつくります」について、意見をいただきたい。

**【柴田委員】** こどもSOSの協力員について、子どもが入学以来、協力員をしているが、この5～6年で一度も子どもが駆け込みに来たことがない。去年一度SOS通信が届いたが、それ以外に協力員同士の連絡は何もなく、自分自身も協力員であることを忘れる時がある。今後、この事業に関して定期的に通信する予定はあるか。

**【近藤課長】** SOSについてはいろいろな意見をいただいている。現状の把握が必要ということで、現在はその実態調査を進めている。定期的な通信は今後の検討課題であると認識している。協力いただいている皆さんに情報提供は必要だと思っているため、その点については検討していく。

**【吉田副会長】** 防犯カメラに関して、うちの商店街のそばに特別支援学級があり、時々生徒がいなくなることがあるが、商店街の防犯カメラが役に立っており、見つかったことが何回かあった。特別支援学級は別としても、小学校・中学校の付近や通学路に防犯カメラを設置することはできないか。

**【杉山課長】** 小学校については通学路に5台ほどついており、これは既に完了している。中学校については通学路の道路上ではないが、施設の安全を守るという面から校内を中心として昨年度までに全28校で防犯カメラを設置している。安全は非常に重要であるため、今後は防犯カメラを適切に維持・運用・管理していく。

**【吉田副会長】** 何かあった時に、商店街の場合は管理者に連絡があり、ビデオを見に来るのだが、通学路の場合はどちらへ連絡がくるのか。

**【杉山課長】** 肖像権やプライバシーの問題があるため、通学路に関する画像は警察からの照会に基づき、画像を警察署に渡すという形で管理をしている。

**【渋谷会長】** 基本目標6「特に支援を必要とする子どもと家庭をサポートします」について、意見交換等をしていただければと思う。

**【田尻委員】** ひとり親家庭ホームヘルプサービスについて、大田区内全域でみるとひとり親家庭はかなりあると思うが、利用世帯数が11というのは目標値としてこれでいいのだろうかという気がする。非常によいサービスだと思うため、もう少し周知をしていただけるとよいと思うが、どうなっているか。

**【有我課長】** 実績をみると利用世帯数が限定されている。制度の対象者や利用要件の関係もあるが、利用者からすると使いにくいのか、あるいは事業の広報が不足しているのか等を分析する必要がある。今後は制度の利用促進に向けて所管と検討していく。

**【齋藤委員】** 外国人家庭への支援について、これから外国人労働者も含め外国人がもう少し増えていく可能性があるのではないかと。子どもに特化した施策ではないため次期計画に掲載しないこととしているが、子どもではなく別の分野で取り扱いをするのか、このあたりはどのようにしていくか。

**【白根課長】** プランを昨年度策定し、外国人に対する支援をより強力に進めていくというのを明らかにしている。今年の4月に入管法が改正され、より多くの外国人が日本に住むであろうという予測も立っ

ている。大田区も当然この流れにあり、子どもも増え、その保護者も増える。日本に来た時にはやはり言葉に困るのが最初に直面する課題でもあるため、多言語による情報提供、相談窓口の充実を図っていききたい。m i c s おおたでいろいろな活動をしているが、なかなかまだ知られていないということが課題である。大田区に転入した時にあわせて案内できる仕組みや、何かあったらすぐここに来ればいいのかという仕組みの構築を検討していく。

**【澁谷会長】** 子どもの貧困対策や虐待防止が入ってくるが、現在、国でいろいろ動きがある中で、次年度以降の計画が作りにくいところもあると思う。虐待や貧困に関しては、今後情報提供をいただきながら、自由に意見交換できればと思う。

**【渡邊委員】** こども食堂との関わり方はどうなっているか。

**【大淵課長】** 現在、区内にこども食堂は17か所あり、昨年6月、社会福祉協議会が事務局となり、こども食堂連絡会を発足し、取り組みを進めているところである。こども食堂連絡会においては、それぞれのこども食堂が抱える悩みを共有したり、食材をお互いに融通し合ったり、さまざまな連携を進めている。また、昨年度から実施している「地域とつくる支援の輪プロジェクト」においても、こども食堂や学習支援団体等、地域活動団体と連携しながら、子どもの生活応援に資する活動を進めているところである。

### **(3) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて**

**【澁谷会長】** 議事の(3)教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて、事務局から説明をお願いします。

**【中村係長】** 資料4により、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて説明

**【澁谷会長】** 今の説明を受けて、委員には意見等を事務局あてに後日書面にて提出いただきたい。

**【中村係長】** 次回の会議は11月の中旬を予定している。開催日時については、改めて委員の皆様にお送りする。

**【澁谷会長】** これをもって、令和元年度第2回大田子ども・子育て会議を終了する。